新年のごあいさつ

対馬市長
比田勝尚喜

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、穏やかな笑顔溢れる新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、皆様からの力強いご支援をいただき対馬市長に就任して間もなく10ヶ月になろうとしております。就任後は、財部前市長から受け継いだバトンを「守破離」の精神のもと、守るべきものは堅持し、変えるべきものは変化させ、懸命に市政運営を行ってまいりました。

その中でも、公約として掲げました「ふるさと納税の返礼品の導入」につきましては、7月の機構改革において担当部局を設置し、11月1日から運用を開始いたしました。インターネットサイト「ふるさとチョイス」や、市民の皆様のご協力を得て、島外に広く周知しているところでございます。

その成果もあり、開始50日あまりの期間で、約1，300件、総額2，400万円を超えるお申し込みをいただきました。このうち、返礼品開始に伴う第1番目の納税者となられた長崎市在住の御手洗典子さん（峰町三根出身）を訪問し、返礼品の贈呈を行ってまいりました。御手洗さんからは「対馬に住んでいた頃に食べた味が忘れられなかったので、開始日早々に申し込みました」との声をいただきました。

この返礼品制度は、返礼品をお送りすることにより「対馬を知ってもらい好きになってもらうこと」「対馬を懐かしんでいただくこと」により、結果として、地域産業の活性化に繋がるものと考えております。

私も引き続き広くPRを行ってまいりますので、市民の皆様におかれましても、ご親戚・知人・友人の方々へご紹介して頂き、ご活用くださいますよう、この場をお借りしてお願いいたします。

さて、昨年の対馬を振り返ってみますと、何といっても悲願であった「有人国境離島法の成立」というビッグニュースを欠かすことはできません。新法成立に向け、議会と行政が一体となって、県下関係市町と共に連携しながら粘り強い活動を重ねてまいりました。その活動が実り、昨年4月20日、参議院において可決成立し、本年4月1日から施行される運びとなりました。

成立にあたりましては、特に長崎3区選出の谷川弥一代議士には先頭に立って国会の最前線にて各党議員各位への説明や調整など、長年にわたりご尽力いただきました。この場をお借りして、これまでのご尽力に対し、改めて感謝申し上げます。

有人国境離島法には航空運賃及び航路運賃の低廉化のほか、生活や事業活動に必要な物資輸送費用の負担軽減や雇用機会の拡充策及び国境監視に要する漁船操業費用の負担軽減などのソフト事業が盛り込まれております。これにより今後10年間の地域振興の後ろ盾を得ましたので、この千載一遇の機会に産・学・官・金等関係団体とも連携し、地域社会の維持・発展のため、オール対馬の体制で本市ならではの施策提案に向け、知恵を絞ってまいります。

また、平成26年度から2カ年間をかけて市民の思いや地域の課題を共有し、その解決に向けた施策をオール対馬で協働し、創造していくための第2次対馬市総合計画を策定し**「みんなで目指そう！自立と循環の宝の島　対馬」**を合言葉に、平成28年度からスタートさせました。

若者でにぎわう希望の島「ひとづくり」地域経済が潤い続ける島「なりわいづくり」支えあいで自立した島「つながりづくり」自然と暮らしが共存した島「ふるさとづくり」の4つの目指すべき対馬の将来像実現に向けて、市議会との連携、市民皆様との協働のもと、市民主体のまちづくりをさらに進めてまいります。

加えて、朝鮮通信使関係資料のユネスコ記憶遺産への登録も大詰めを迎えます。昨年3月には日韓の民間団体であるNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と財団法人釜山文化財団がユネスコ本部に共同申請書を提出し、11月には私も両団体とフランス「パリ」のユネスコ本部を訪問し、審査や登録のスケジュールについて意見交換を行うとともに、講演会・資料展示を行い、朝鮮通信使の果たした歴史的な役割の重要性・普遍性をPRしてまいりました。ユネスコ本部からは「大変良いプログラムだ」との評価をいただいたところです。

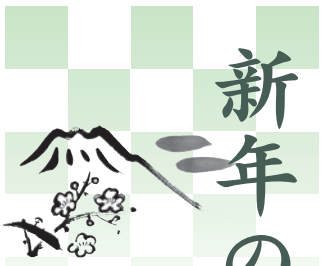
私たちの先人が幾重にもわたる苦難の上に咲かせた日韓両国友好の証「朝鮮通信使」は、まさしく市民劇団「漁火」が演じるミュージカル「対馬物語」の一説にある**「島は島なりに」**生きていかねばならない対馬の在り方を指し示しています。

本年秋にも登録が期待されるところでございますので「対馬が果たしてきた歴史的意義」を広くPRするとともに、対馬に足を運んでいただいた皆様に満足いただくための「おもてなし」を市民の皆様と共に高めていきたいと考えます。

「おもてなしを高めること」

新年のごあいさつ

対馬市議会議長
堀江政武



新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、ご健勝で希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお喜び申し上げます。平成29年の年頭にあたり市議会を代表いたしまして、ここに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市議会に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、熊本地震や、台風による記録的な豪雨などの自然災害により、各地で甚大な被害に見舞われ、改めて防災対策の重要性を認識させられました。

一方で、3年連続で日本人がノーベル賞を受賞し、スポーツ界では、リオデジャネイロオリンピックで、レスリング女子個人の伊調馨選手が史上初の五輪4連覇を達成し、日本人選手が12個の金メダルを含む史上最多のメダルを獲得しました。また、大リーグのイチロー選手がメジャー通算3，000本安打を達成し、スポーツ界の金字塔が多数打ち立てられるなど、日本人の活躍が世界から賞賛された年でありました。

本市では、比田勝新市政がスタートし、佐須坂トンネルの開通、ホテル誘致の実現、いづはら診療所の開所など、大きな出来事が続いた節目の年で、大勢の外国人観光客の皆様に本市を訪れていただき、にぎわいのある一年でした。

本年は、いよいよ4月から国境離島新法が施行されます。これにより、航路・航空路運賃の低廉化、物資の費用負担軽減、雇用機会の拡充などが可能となり、島の活性化や発展に大きく寄与するものと期待しております。

さて、市議会には、総務文教・厚生・産業建設の3つの常任委員会を設置し、各地域の実情を把握すべく所管事務調査を精力的に実施しております。また、3つの特別委員会を設置し、それぞれの専任重要課題に取り組んでおります。

国境離島活性化推進特別委員会では、平成19年6月以降第4次まで約10年にわたり調査、研究や国境離島新法の制定に向けて、総決起大会の開催、国会議員や省庁への要望活動を重ねてまいりましたが、新法は昨年4月20日の参議院本会議で可決、成立をいたしました。

国県道路等整備促進特別委員会では、島の活性化の基盤である国県道路の整備促進、本土とを結ぶ離島航路の整備充実や運賃の低廉化などの改善に向け、積極的に取り組みを行っているところであります。

議会基本条例調査研究特別委員会では、市議会が地方創生の牽引役を果たすために質的充実を図ることが求められており、議会改革を継続し発展させることを目的とした議会基本条例の制定に関する調査・研究を行っております。

今を生きる私たちの使命は「先人が守り・育て・慈しんできたこの島を、未来に繋ぐこと」です。対馬の未来を決定づけるであろう重要なこの時期に、対馬（しま）づくりの船頭役を仰せつかった責任を意気に感じて、ふるさと対馬を将来の世代にしっかりと自信を持って引き渡せるよう、市政の創造と革新に果敢に挑戦してまいります。

市民の皆様方におかれましては、引き続き深いご理解と力強いご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、皆様方にとりましても、対馬にとりましても幸多からん素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年の言葉といたします。

さて、今、日本は世界に類を見ない速さで人口減少・超高齢社会に向かっており、国も地方も大きく変革する中で、本市においても人口減少対策、子育て支援の推進、農林水産業の活性化対策、有害鳥獣の被害対策など、課題が山積しております。

私たちの任期も今年5月で満了を迎えますが、市議会といたしましても、これらの山積する課題に立ち向かいながら、まちづくりの主役は市民の皆様であることを第一に考え、対馬市の将来像であります「自立と循環の宝の島　対馬」の実現と市民福祉の向上のため、議員一同、市民皆様の信頼と負託に応えられるよう、全身全霊で取り組んでまいる所存であります。そして、あらゆる世代が夢や希望を持ち、ともに成長でき、穏やかに暮らせる安全・安心のまちづくりを、市民の皆様と一体になって進めてまいりたいと決意しているところでございます。これからも最後までご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が市民の皆様にとりまして幸多き素晴らしい一年でありますよう心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。